

CASBEE京都-新築(2011年版)				■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)				
(仮称)焼山町大島計画		欄に数値またはコメントを記入		■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1)				
スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
				3.0	0.15	3.3	1.00	3.1
				3.0	0.50	3.0	0.50	3.2
室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	0.50	
遮音				3.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
				2.6	0.35	3.0	1.00	2.9
				3.0	0.50	3.0	0.63	
1 室温				3.0	0.63	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.38	3.0	1.00	
4 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	
2.3 空調方式				1.0	0.20	-	-	
				3.0	0.30	3.0	0.38	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
				2.7	0.25	3.0	1.00	2.9
1 昼光率				3.0	0.30	3.0	0.35	
2 方位別開口				3.0	0.60	3.0	0.50	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策								
				2.0	0.30	3.0	0.35	
2 昼光制御				2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度								
				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.29	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
				3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
1 化学汚染物質				4.0	0.60	4.0	0.63	
				4.0	1.00	4.0	1.00	
				-	-	-	-	
				-	-	-	-	
4.2 換気								
				3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	0.50	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御				-	-	-	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
				3.0	0.40	3.2	1.00	3.1
1 広さ・収納性				3.0	0.40	3.0	0.60	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	3.0	0.40	
1.2 心理性・快適性								
				3.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観				3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	3.0	0.50	
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理								
				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
				2.9	0.31	-	-	2.9
1 耐震性				3.0	0.48	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-	
3.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
				3.2	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				4.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性					2.2	0.19			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				1.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					1.6	0.29	3.0	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり							3.0	0.50	
1	階高のゆとり						3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)				3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					1.6	1.00			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		2.0	0.17			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		1.0	0.17			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		1.0	0.11			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		1.0	0.11			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		1.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加算) D(独自基準)		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A(全国版準用)		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	2.5
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	2.3
1 建物の熱負荷抑制					3.0	0.40			3.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		●自然	A(全国版準用)		2.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用		●自然	A(全国版準用)	太陽光を利用している。	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化					1.4	0.40			1.4
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					#VALUE!				
集合住宅の評価					1.4				
4 効率的運用									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.6
1 水資源保護					2.2	0.15			2.2
1.1 節水					1.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)		3.0	1.00			
2 雑排水等利用システム導入の有無									
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63			2.9
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●大切	A(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)		3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.3	0.22			2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					2.0	0.68			
1 消火剤					-				
2 発泡剤(断熱材等)					1.0	0.50			
3 冷媒					3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.6
1 地球温暖化への配慮					3.7	0.33			3.7
2 地域環境への配慮					2.1	0.33			2.1
2.1 大気汚染防止					-				
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.67			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.33			
1 雨水排水負荷低減					3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 交通負荷抑制					3.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					2.0	0.33			2.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					-				
1 騒音					-				
2 振動					-				
3 悪臭					-				
3.2 風害、日照障害の抑制					1.6	0.67			
1 風害の抑制					1.0	0.70			
2 砂塵の抑制					3.0	0.30			
3 日照障害の抑制					3.0	0.33			
3.3 光害の抑制					3.0	0.70			
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.30			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素量削減に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からとる